

**拠点間を常時接続。
まるで隣で一緒に働いているように、コミュニケーションが活性化。**

実際に使っているお客様に直撃インタビューしました

医療法人社団 芳佑会 **がんメディカルクリニックCARNAMED 様**



■導入先

■お客様会社名称

医療法人社団 芳佑会
がんメディカルクリニックCARNAMED

■お客様の業種

医療業

■お客様の主な業務内容

がん総合医療外来
(患者様の状態に合わせて、複数のがん治療を提供)



■導入商品

■機器構成 P3000×3台 Apps × 2ID

■ご導入拠点

P3000: 医療法人社団芳佑会 高柳クリニック(釧路)、
札幌事務所、札幌 院長室

Apps: 札幌 受付、札幌 事務所

■料金体系 シングルフラット15、Appsシングルフラット50

■導入形態 新規導入

導入の背景

釧路で眼科外来(同法人 高柳クリニック)を開業しておりましたが、札幌にがん総合医療外来を新規開院することになり、病院間の移動や情報共有をどのようにするか考えていました。そこで、遠くにおいても日常的なコミュニケーションができるツールを探していました。

導入前の課題

- ① 日常的なコミュニケーションツールとして他社WEB会議システムを利用していましたが、顔しか見えないので、結局、会議の時しか使わなくなっていました。相手の様子が常に見えないと話しかけづらいと感じていました。
- ② 釧路にも札幌にも患者様がいたので、院長が釧路と札幌を行き来していました。そのため院長が不在時でも、患者様が相談に来られた時、いつでも対応できるようにする必要がありました。

リコーUCSをこのように利用しています

- ① 朝、最初に出勤した人がP3000の電源を入れて、常に釧路と接続した状態にしています。ミュートを解除すれば、すぐに話しかけられるので、ちょっとした疑問もその場ですぐに確認することができます。
- ② 患者様から何か相談があった際、看護師でも対応はできるのですが、やはり「院長先生から直接、話を聞きたい。」という患者様の声もあります。そんな時は、院長がP3000を通して遠隔で相談にのることもあります。さらには、クリニック受付のパソコンにUCS Appsを入れたことで、釧路と札幌で互いに診察の予約状況を確認できるようにしました。これにより患者様はどちらの病院も予約できるようになっています。

導入後の効果

交通費の削減もできましたが、それよりも、コミュニケーションの頻度が増加したことが大きいです。普段から会話をしているので、会議の回数が減りましたし、「確認漏れ」といったこともなくなりました。

一番、効果を感じているのは、事務所全体が映ることで、お互いの状況を見て感じられることです。「忙しそうだな」とか、相手の事務所の様子がわかることで、よりスムーズにコミュニケーションが取れるようになりました。直接会ったことがないのに、顔なじみのように会話ができていのも、普段の様子を知っているからです。

また、遠隔で患者様からの相談に対応したり、診察予約をしたりと、患者様へのサービス向上にも役立っております。

お客様の声・今後の展望

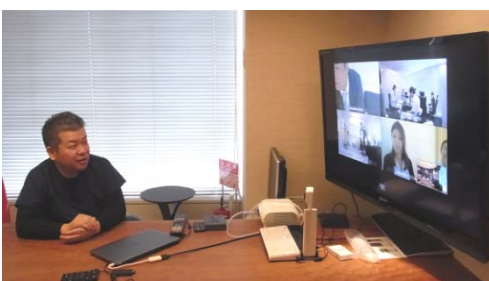
離れた拠点ができると、「情報共有」が悩みどころになるとは思いますが、「一心同体でやる！」には普段からのコミュニケーションが必要だと思えます。事業を前に進めるため、前向きな投資になりました。



〈釧路〉 高柳クリニック (P3000画面)
事務所全体が映るように設置



〈札幌〉 事務所(P3000)



〈札幌院長室〉
遠隔で相談対応ができるようにしている



高柳 芳記 院長